修紅短期大学附属認定こども園の第三者評価の公表について

1　評価機関

公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」(第三者評価システム)

2　第三者評価の内容

① 教育面の評価(ECEQ基準)　10月19日(金)　‥(参加者91名)

STEP1からSTEP5までの各段階で実施園、ECEQコーディネーター及び公開保育の参加者が共に学びあうことで幼児教育の質の向上を目指す。

② 運営面の評価　11月12日(月)

3　評価結果について

第三者評価結果報告書の通りです。

総合評価については、AAA → AA → A → BBB → BB → B → C の評価のうち本園ではBBBの評価を受けております。

【評価報告書】

修紅短期大学附属認定こども園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取り組み		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～15
第三者評価確認書類リスト	非公表	P16～P17
公開保育への取組みの様子（写真）	非公表	P18～P20
第三者評価結果（詳細）	非公表	P21～P37

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施　設　名　称	修紅短期大学附属認定こども園
運営法人名称	学校法人　健康科学大学
施　設　種　別	幼保連携型認定こども園
代表者氏名	理事長　笹本　憲男
施設所在地	〒021-0902 岩手県一関市萩荘字竹際 71 番地 2
電話番号	0191-24-5005
FAX 番号	0191-24-5006
ホームページアドレス	www.shuko.ac.jp/kg/
メールアドレス	youchien@shuko.ac.jp
事業開始年月日	平成 27 年 4 月 1 日
教職員・従業員数	35 人
施設・設備の概要	東棟（管理棟）、北棟（遊戯室）、西棟（保育室 4・調理室） 南棟（保育室 5）延べ床面積　1,238.16 ㎡ 園庭面積 6,246,64 ㎡

【理念・基本方針】

【教育目標】にこにこぴんぴん みんななかよく なにかでひとより
【教育方針】・未分化時代の幼児の夢の世界を育てる。
・心身の発達段階に応じた基礎能力を養う。
・情緒の安定した創造力のある明るい元気な子どもを育てる。

【施設の特徴的な取り組み】

●園庭内での動物飼育：山羊 2 頭・ポニーを園庭内の飼育小屋で飼育。子どもたち自らエサやりや飼育小屋掃除体験を行う。動物に実際に触れ温かさや匂いを感じ、また鳴き声や息遣いなど五感で感じる。●3 種類の砂場：園庭には種類の異なる 3 種の砂場を設置①川砂②山砂③赤土。性質の違いが、遊びの幅を広げ、考える・試す・工夫することへと繋がります。●子育て支援：おもちゃ図書館。週に一度遊戯室を開放し、未就園の親子の遊び場となります。おもちゃの貸し出しも行います。●短期大学附属：幼稚園教諭・保育士養成校の附属として連携。学生との交流や研究協力。

【評価機関情報】

評価機関名	(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	平成 30 年 10 月 19 日、11 月 12 日
評価者	H29A00622、H30B00701
公開保育コーディネーター・支援者	EH25020002、EH27040125

【総評】

●総合評価　　評価〔BBB〕

修紅短期大学附属認定こども園は、大学法人の運営により法令遵守や会計基準の適格性などが担保されている。また、園長の保育実践における明確なリーダーシップのもと、教職員が一体となって日々の保育にあたり、絶えず質の向上に向けての取組を行い、長年にわたり地域の信頼を得ている。

この度、岩手県で初めて当研究機構の第三者評価を実施するにあたり、ECEQ を実施することにより保育教諭を中心に自園の保育実践における課題を明確にすることで、今後、より一層こども園としての機能が充実し、地域の幼児教育センター的な役割を担ってゆくことが期待される。

●特に評価が高い点、園の良さ等

短期大学と隣接した、十分な広さを備えた園庭を中心とし、認定こども園として豊かな施設環境を備えており、伝統に依拠した安定した保育実践がなされている。

運営においても、大学法人の運営であることの利点をいかして、会計をはじめ経営全般において、法令遵守がなされ適正に執行されている。

●課題、改善を求められる点

保育が安定している一方で固定化していることが否めず、柔軟な発想や展開が必要であることが職員間で自覚されている。また、週案、日案も作成しているが、活動予定にとどまりがちであった。ECEQ の実施により幼児の育ちの姿からねらいを立て、そのねらいを達成するための環境構成や保育者の指導を具体的に考え実践する必要性が確認され、改善点が明らかになった為、今後の具体の取組が期待される。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

この度 ECEQ 公開保育を活用した第三者評価を受審させていただいたが、本園にとっては、公開保育を迎えるまでの園内研修や当日に参加者の皆様から頂いたご意見等が大きな収穫となりました。また、この度の第三者評価から明らかになった課題の改善に向け、職員一丸で取り組み、子どもたちの今と未来の幸せのための努力を今後も継続していきたいと思います。

第三者評価結果

Ⅰ保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1．事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

事前訪問時に抽出された良さ

・園庭が広く砂場遊びや水遊びなどが充実してできること

・ヤギやポニーを飼育していることから、日常的に動物との触れ合いができる環境があること

事前訪問時に抽出された課題

・活動が固定しており、良さと自覚している環境を活かしきれていないこと

・認定こども園になり時間差の関係から日常的に保育を語る時間を持てず、保育者間の情報共有が難しいこと

2．①公開保育実施時の課題等

活動が固定化していることへの課題から、あらためて屋内環境・屋外環境の双方について考え合い、遊びが広がるためには何が必要か園内での話し合いを深めてきた。園内研修を進めるにしたがって、各学年共に子ども同士の関わりに対し課題意識を持つ保育者が多くみられるようになり、関わりを深めるためにどのような援助が必要であるのか、環境の一部である保育者自身についても考えが及んだ。

またヤギやポニーの飼育に対しても、子どもたち自身の活動にしていくために必要な保育者の援助の在り方も考え合い、取組を始めた。公開保育当日には、遊びの中における子どもたち同士の関わりについての問いと、活動が固定化しているのではないかという考えから、遊びが継続発展していくための環境についての問いが出された。

②公開保育後のカンファレンスにおける外部のから見た良さや課題

本園の良さとして、ダイナミックに遊ぶことができる広い園庭や、動物との触れ合いができる飼育環境など、子どもたちが思い思いに遊ぶことができることがあげられた。大きな 3 か所の砂場は、それぞれ砂の種類が異なっていることから、違った遊びの展開が期待できることがあげられた。

課題としては、水の扱いや、保育者の援助に対し意見が出され、そこに保育者としてどのような工夫が必要であるのか話し合われた。また、遊びが発展していくための保育環境についてもそれぞれの学年で意見が出され、子どもたちが遊び込むことができるようにするためには、保育者間の情報交換が必要であり、子どもたちの育ちの共有が日頃から行われることが大切であること、また、子どもたちの中から意見を出し合い、話し合いながら遊びを深めていくことができるような場面をどう作っていくのか等、子ども同士の関わりについても意見が出された。

３．事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

「保育教諭の意図がわからない」「活動の意図が知りたい」という参加者からの意見が、活動が固定しているという本園の課題と重なり、なぜこの活動を行うのか、活動のねらいを示している指導計画の在り方、週案、日案の在り方を検討することが課題としてあげられた。記録等の重要性にも気づきがあり、今後の園内研修の課題として、自分たちの保育を保育者一人一人が自分の言葉で語ることができるようにするために、日々の記録から子どもたちの学びの姿を見出していくことが大切であることが自覚された。

良さとしては、ECEQ を実施したことにより、保育者間で保育を語ることが自然と行われるようになったことは大きな収穫であった。少しの時間でもそれぞれのクラスの様子を語り合う素地が生まれてきたことを感じた保育者が多かったことから、自園の課題に対し、日々の話し合い、語り合いの中から解決の糸口を見出していくことが一つの方策であることが自覚できたようである。

Ⅱ．ヒアリング等・書面等による評価

＜A　教育・保育＞

❶子供の人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子供の家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てるよう努めている。	㊖・未
2	子供や保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	㊖・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子供に不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	㊖・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	㊖・未
5	子供の成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	㊖・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子供に、共に大切に扱われている。	㊖・未
7	全ての子供が「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子供集団（学級）のなかにある。	㊖・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子供たちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	㊖・未

（コメント）

子ども一人一人の人格を尊重し、それぞれの持つ個性を大切にすることを教育方針にしている。また、安定した気持ちで生活を送ることや、愛されているという自己肯定感を感じることができる保育を目指して努力している。

❷保育者の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	㊖・未
2	保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	㊖・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	㊖・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	㊖・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	㊖・未
6	教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	㊖・未
7	子供と関わることを喜び、子供の遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	㊖・未
8	教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	㊖・未

（コメント）

園内外の研修に教職員が主体的に参加し、専門性の向上に真摯に取り組んでいる。
公開保育にも積極的に取り組み、教育・保育の質を高めようとしている。

❸子供理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1）子供理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子供の内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子供の姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子供理解に努めている。	済・未
3	子供の記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子供理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子供の成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子供の育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子供理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子供一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子供の家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子供理解を図っている。	済・未

（コメント）

ありのままの子どもの姿を受け止め、理解しようとする姿勢があり、保育者が保育日誌等で子どもの姿を記録している。今後は、記録をもとに、子どもの活動や遊びが一人一人の学びや成長にどう関連しているのかということを保育者間で話し合い、幼児理解や環境構成の見直しにつなげていくことを期待する。

2）教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子供の発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子供の発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子供の状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未

（コメント）

教育課程は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成しており、保護者にも理解しやすいように写真を入れて作成し直す工夫もしている。月案、週案、日案も作成しているが、週案、日案については、活動予定ではなく、幼児の育ちの姿からねらいを立て、そのねらいを達成するための環境構成や保育者の援助を具体的に考えていく取り組みが必要である。

3）環境の構成

	調査項目	確認結果
1	＜園舎等の空間＞子供たちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子供の自主性・自発性を尊重すると共に、子供同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子供の成長に合わせた遊具や絵本が、子供の手の届く場所に適切な量で用意され、子供が自由に選び、興味をもって関わり，考えたり，試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子供が安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子供たちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子供の身体にあった大きさで整えられ修繕されている。	済・未

（コメント）
園庭には遊びへの興味をかき立てる遊具や築山、砂場などが設置され、子どもたちが全身を使ってのびのびと遊ぶことができる。身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付くことのできる環境がある。遊具や用具のメンテナンスも適切に行っている。保育室の環境については、子どもがじっくり遊びこめる環境構成を工夫していただきたい。造形的な表現については、子ども一人一人の発想が生かされる指導を期待する。

4）実践

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。 (1)子供が保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。 (2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。 (3)子供が友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。 (4)子供の発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。 (5)在園時間の異なる子供が落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	㊖・未
2	子供の生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。 (1)子供が主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。 (2)子供が自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。 (3)子供の主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。 (4)子供が周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。 (5)子供の発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。	㊖・未
3	遊びを通した総合的な指導を行っている。 (1)子供が主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。 (2)子供が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。	㊖・未

4	子供一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。 (1)子供一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。 (2)子供が主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。 (3)子供一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。 (4)特別な配慮が必要な子供（障害のある子供を含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子供との生活を通して共に成長できるように援助している。	済・未
5	行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。 (1)季節の行事や誕生会等を通して、子供が季節感や文化などを体感できるようにしている。 (2)子供が行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。 (3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子供が地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。	済・未

（コメント）

子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。保育者同士の連携がよくとれており、子ども一人一人に応じた丁寧なかかわりが見られた。

行事については、内容や実施方法について検討されており、子どもの姿や保護者アンケートなども参考にしながら改善を行っている。

5）記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子供の状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。	済・未

4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子供の育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未

（コメント）

保育者が子どもの姿や活動の様子を各自の様式で記録している。それらの記録をもとに、保育者間で子どもの育ちについて話し合い、共有することの大切さをECEQの取り組みを通して気付いたことが確認できた。教育・保育のさらなる質向上に向けて、保育者同士の対話を進めていただきたい。

❺家庭・地域連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子供の成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育ち親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子供の生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子供が豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未

（コメント）

家庭との連携や子育て支援事業を積極的に行い、地域における幼児教育センター的役割を果たしている。小学校教育との円滑な接続のために、小学校教諭との意見交換を行っている。自己評価及び学校関係者評価を実施し、ホームページで公表している。自己評価については、その年の重点目標を設定し、それに向けて園としてどのような取り組みをしたかということを記載することが望まれる。

公開保育コーディネーターからの報告

東北大会という大きな大会も当地で初めての経験であると同時に、公開保育も初めての実施という中で、保育者自身の緊張が大きかった様子ではあったが、ECEQ を終えた今、保育を創り出していくことの面白さを実感している保育者の姿からもわかるように、語り合うことにより、保育が動きだしていく様子を垣間見ることができた。今回の STEP の中で唯一話題とはならなかったが、STEP2 で ECEQ 実施園の良さとして挙げられていた「附属の大学や高校との連携」は ECEQ 実施園の大きな強みの一つであることから、課題解決の方法として挙げられていた指導計画や週案、日案等の在り方や、環境構成への取組などは、大学との連携を図ることで、より一層研究を深めることができよう。

保育者の経験年数が幅広く、クラスを担当せずに広く大きく保育を見る立場の保育者がいることも実施園の強みであることから、語り合いが自然と行われることで、クラス同士がつながり、学年がつながり、園全体がつながり、自園の自覚的な良さとしての広い園環境に豊かさが増していくことと思う。

Ⅱ．ヒアリング等・書面等による評価

＜B　運営＞

❶運営体制

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未	大学法人が設置・運営する認定こども園であるため、法人本部や隣接する短期大学との業務分担について、確認したうえで、業務の実態を把握し点検した。 また、運営責任者である園長の管理監督の実態を確認すると共に、認定こども園としての管理や事務の実態について点検した。
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未	
3	会計事務を適切に行っている。	済・未	
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未	
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未	
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未	
7	学校評価を実施している。	済・未	
8	適正な法人運営を行っている。	済・未	

（コメント）

大学法人が運営する認定こども園として、その利点をいかし、管理体制の厳格さや実効性の高さが確認された。さらに、敷地内に短期大学の事務部門があることから、連携体制も整い具体的な業務も円滑に行われていた。教育・保育の充実には園長の強いリーダーシップが反映された運営がなされている。

❷安全管理

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未	東日本大震災で甚大な被害をうけた岩手県内の幼児教育・保育施設であるため、マニュアルの整備、その周知と理解、実行につなげる訓練の実施状況について確認した。
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未	
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未	
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未	

（コメント）
立地上、津波被害など想定はないが、被災経験をいかし自然災害への対応ばかりでなく、マニュアルの整備と周知、想定訓練、日常の安全点検や改善の取り組みなどが確実に実施されている。

❸子育ての支援

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。	済・未	地域の状況にそくして短期大学付属の認定こども園という資源と条件をいかした取り組みに期待した。
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。	済・未	

（コメント）
在園児の状況からも、地域の要請に応えた園運営と子育ての支援に取り組んでいることが確認された。さらに、子どもの成長・発達について保護者を中心とした家庭や地域と連携して真摯に取り組んでいる。今後も地域の中核をなす幼児教育・保育施設として貢献していただきたい。